

参院議員・比例代表候補
党参院国対副委員長

大門みきしさんはこんな人

来年夏の参議院選挙で日本共産党は、850万票、得票率15%以上を目標に8人の比例代表候補を立てて、新たな躍進をめざします。近畿2府4県を主な活動地域にするのは参議院議員（3期）の大門みきし（実紀史）さんです。近畿でお世話になった市田忠義副委員長・参院議員は今期で議員を勇退します。



【ごあいさつ】今までは東日本を活動地域としてきましたが、生まれは京都で、本家は大阪の造り酒屋、大学（中退）は神戸と、近畿で育った人間です。演劇を志し上京しましたが挫折、その後、日本共産党に入党し、建設労働運動にたずさわったあと、2001年、参議院議員になりました。

国会では経済問題を中心に取り組んでまいりました。小泉内閣のときは、「構造改革」をかかげた竹中平蔵氏と激しくたたかいました。そして今、くらしを破壊するアベノミクスとのたたかいに燃えています。「海外で戦争する国」づくりは絶対に許しません。

近畿は市田忠義副委員長が活動されてきた地域であり、全国で最も党勢の強い地域です。市田さんの足元にも及びませんが、精いっぱい努力して、現場の要求にこたえられるようになりたいと思っています。お力添え、よろしくお願いいたします。

熱い心を持った大門さん モットーは現場主義

【略歴】1956年1月、京都市生まれ。京都市立月輪中学校、市立日吉が丘高等学校卒。神戸大学に入学するも演劇に熱中。21歳の時、大学を中退し喜劇作家をめざして上京。自ら劇団を立ち上げたこともあるが、時代に合わず夢破れる。

- ・その後、建設労働運動に没頭。東京土建本部書記長、全建総連中央執行委員をへて1998年に参院選立候補。
- ・党中央政策委員を経て2001年参議院議員に繰り上げ当選。04年、10年当選をへて現在3期目。
- ・雇用、中小企業など現場の問題を数多く国会で取り上げてきた。特に歴代総理を相手にした経済論戦には定評がある。
- ・家族は妻と二男

【役職】党参議院国会対策委員会副委員長。予算委員会、財政金融委員会、地方・消費者問題特別委員会委員。党建設国保対策委員会事務局長、党消費者問題対策委員会事務局長。党中央委員

【著書】『ルールある経済ってなに？』『属国日本 経済版』『新自由主義の犯罪』（いずれも新日本出版）

【モットー】労働運動出身の大門さんは、自ら足を運んで現場の生の声を聞くー「現場主義」がモットー。生活相談は参院議員の14年間で1000件以上。

【フェイスブック】大門さんのフェイスブックへの投稿は、温かい人柄がにじみ出て大人気。「大門さんの言葉に救われた気がします」「大門さんのコメント素敵すぎ〜」「いつも何か一味違う。何だろう？思想とともに、やはり『人間』なのだろう」などのコメントがたくさん寄せられます。

◆座右の銘は「意気に感ずる心」

中学生のはじめの頃は大変な「問題児」でした。「こいつはもう手に負えんわ。転校させるか、施設に入れるしかしゃあないなあ」という当時の教師たちの話を聞いて、「ちょっと待ってんか、ワシにまかせてくれ」と買って出たのが、一生の恩師になった植山忠次郎先生でした。口はやかましいが心のとても温かい先生。毎日、大門さんの家へ来て「うどん食いにいこか」と連れ出し、きつねうどんを食べさせながら、こんこんと説教しました。大門さんは「先生の熱心さに根負けして、何とか立ち直り、高校へも進学できた」と言います。

植山先生はいつも「大門、男はなあ、意気に感じる心を忘れてたらあかへんで」といっていました。それ以来、座右の銘は「意気に感ず」になりました。

◆大学中退した理由は？

高校時代の夢は小説家か劇作家になること。大学に入学したものの、ほとんど授業にも出ず学生劇団をつくり、21歳のとき、脚本家をめざして大学を中退し上京。最初は名のある劇団で本書きの見習いもやりましたが、志向があわず、早稲田大学や日本大学の人たちと素人劇団を結成。当時、大学の先輩が吉本興業にいて、関西にもどって吉本に来ないかと誘われました

が、仲間に反対されてやめました。

◆共産党に入党したきっかけは

23歳のとき、たまたまアルバイトをしていた生活協同組合で食堂のおばちゃんから「赤旗」をすすめられ購読。モノを読むのは好きだったので、毎日読んでいるうち、目からウロコが落ちるような思いに。3ヵ月ほどたった頃、どうしても共産党に入りたくなり、中央委員会に電話して地区委員会の住所を聞き訪問。「入党したい」というと、「今日のところは帰ってくれ」といわれました。後日、生協のなかに党組織があるのがわかり入党。「親兄弟に共産党関係者もおらず、民青の経験もない、ノンポリ演劇青年をいっぺんに変えてしまった『赤旗』って、やっぱりすごいなと思います」と大門さん。

◆趣味

①山歩き 若いころは、北アルプスの3000メートル級の山をほとんど登りつくしました。

②絵本の収集 数年前、柳田邦男氏の『大人が絵本に涙する時』（平凡社）を読みました。大人こそ絵本を読もうという「絵本のすすめ」です。以来、数百冊の絵本を収集。

③映画 好きな映画はベルトリッチの「1900年」、「カサブランカ」「椿三十郎」

抜群の論戦力・行動力 議場うならず国会質問

■歴代9内閣と対峙 森、小泉、安倍(第一次)、福田、麻生、鳩山、菅、野田、安倍(第二次)との歴代9内閣と対峙してきました。

経済論戦 竹中氏との論戦は語り草。いまアベノミクス追及

小泉「構造改革」路線と対決 「構造改革」のブレーンだった竹中平蔵大臣(当時)とは52回もの激しい論戦を展開。「それでも経済学者か」「それでも国会議員か」という応酬は今も語り草。

アベノミクス いち早く予算委員会の場で「大胆な量的緩和」の危険性と格差拡大の二極化政策であると指摘。その後の推移を見通した。

労働問題 非正規問題をいち早く取り上げ、派遣大企業を破たんし追い込む

非正規雇用 社会問題化し始めた2004年、いち早く取り上げ小泉内閣の雇用の規制緩和路線を批判。当時、違法派遣で若者を食いものにしていた派遣大企業クリスタルグループ(本店・京都)の違法行為を暴露。廃業に追い込む。

郵政非正規職員の正社員化 2010年、日本郵政の非正規職員の正社員化を要求。亀井静香大臣(当時)が「やる」と答弁。その後、「10万人正社員化計画」が発表され、亀井大臣の任期中に1万数千人の正社員化が進んだ。

カジノ(賭博場)問題 被災地の計画を阻止、全国の運動と連携

被災地にカジノをつくる動きを阻止 民主、自民などの議員連盟が被災地、仙台空港周辺にカジノをつくるため国会にカジノ解禁の議員立法を提出する動きになった。大門さんは現地調査でブローカーが被災者の窮状に付け込んで土地の買収を進めようとしている事態を把握。予算委員会(NHK中継)で「賭博で復興とは被災者を愚弄するものだ」と野田首相(当時)に迫り、「私の内閣ではカジノはやりません」と答弁させ、被災地カジノ構想は立ち消えになった。(2001年)

阪、横浜のカジノ反対運動と連携。現地集会などでも講演、パネリストをつとめる。また国会の決算委員会、消費者特別委員会でカジノ批判の質問。(2013年～現在)



安倍首相に議連最高顧問辞任さす カジノを成長戦略の目玉とする安倍首相に「人のカネ巻き上げて何が経済対策か」と迫り、首相にカジノ議員連盟の最高顧問を辞任させる。参院自民党は、この質問で慎重派が増加。(2014年)

全国のカジノ反対運動と連携 小樽、釧路、苫小牧、秋田、大

金融被害 「サラ金質問」全議員でトップ。貸金業法改正に尽力

ヤミ金、サラ金問題を早くから国会で取り上げ、2006年の貸金業法改正案の成立に尽力。06年～07年のサラ金問題の質

問回数は17回と全議員中トップ。多重債務対策の前進に大きく貢献した。

被災地支援 被災者に寄り添い改善次つぎ



発災の翌日、3月12日に現地入り 避難所を回って物資、照明の手配など行う。

被災地の事業者の再スタート支援に全力 「中小企業グループ補助金」(現在、605

グループ、実績4546億円) 制度の創設に関わり、その後も拡充、改善にとりくむ。

「債権買取り機構」(中小企業所管と復興庁所管の二つの「機構」がある) 中小企業庁との連携、共同調査で、買い取り基準の緩和などを進めた。

個人の債務軽減 「私的整理ガイドライン」について運営指針が厳しすぎる問題で奮闘。運営指針の柔軟化がはかられ、個人の債務軽減件数が急速に伸びる。

原発損害賠償関係 賠償問題にとりくみ、賠償金の非課税なども取り上げた。

中小企業問題

中小テナント保護問題 倒産した大手スーパー長崎屋が倒産し、全国のテナント各店に敷金・保証金が戻らない問題が表面化。現地調査をふまえ、苦境に立たされているテナントに対して、緊急の救済措置をとることを要求。経産省がテナント問題指針を出すことに。特に大沢辰美参院議員(当時)と力を合わ

せ、兵庫三田市のサティの中小テナントとともに運動する。

融資問題 「不良債権処理」路線にともなう中小企業への貸し渋り、貸しはがしをふくむ融資問題を繰り返し国会で追及。金融検査マニュアルにおける中小企業判定の厳格化を批判。

消費者問題

パロマ湯沸かし器事故、シンドラ社エレベーター事故 事故で亡くなった遺族の手紙を麻生総理(当時)に届け、行政を突き動かす。

コ店のうち、およそ950店舗に銀行ATMが設置されている問題をとりあげる。パチンコへの「のめり込み」に手を貸し、多重債務者を生み出すものとして金融庁、警察庁をただす。

パチンコ店への銀行ATM設置問題 全国に11000あるパチン

論戦力 マスコミも太鼓判。他党も一目

●**敢闘賞** 朝日新聞がすぐれた国会論戦をした議員に贈る賞で、大門さんは敢闘賞を受賞(09年)

●**「議場が、大門さんの味方になってしまう」** 元閣僚の言葉です。徹底した現場調査をもとに、柔軟で鋭い大門さんの質問は、「勉強になる」「毎回楽しみにしている」と他党議員も一目。「私は大門先生の影響を受けている」と発言した他党議員に大臣が「私も大門先生の話に引き込まれないよう注意している」と答弁し、場内爆笑ということも。